

地域共生型あぐり事業



田園資源 × 福祉 × 交流

ボランティア団体

- ・ marugo-to (まるごと)
- ・ 西蒲区社会福祉協議会

<取り組みの概要>

- ◆ 地域にある使わなくなった農業用ビニールハウスや畑を活動拠点として、認知症の方、高齢者をはじめ、障がいのある人、ひきこもりの人などが、やりがいや、生きがいを持って活躍できる場所を提供。
- ◆ 男性シニアボランティアや参加者の方々と一緒に農作業や創作活動、様々なイベントを実施。

<取り組みの効果>

- ◆ 男性シニアボランティアや参加者の方々が、農作業や創作活動を自由に、かつ、自主的に行うことで、生きがいやメリハリのある生活を送ることができている。
- ◆ 農作業に従事することで、地域の農業の活性化の一助となっている。
- ◆ 様々なイベントを企画することで、地域の世代間交流の場にもなっている。
- ◆ 令和元年12月「第3回認知症とともに生きるまち大賞受賞」(NHK厚生文化事業団)

<marugo-to (まるごと) >

- ◆ 概要 : 新潟市西蒲区を活動拠点とし、高齢者や障がい者、子ども…すべての人(丸ごと)が利用でき、それぞれの役割や目的をもって行く(go to)ことができる場所を提供しています。
- ◆ ホームページ : <http://www17.plala.or.jp/marugo-to/index.html>

<西蒲区社会福祉協議会>

- ◆ 概要 : 住民の皆さんとともに、地域の福祉問題について考え、協力して、誰もが安心して暮らすことのできる「福祉のまちづくり」を目指す営利を目的としない民間の団体です。
- ◆ ホームページ : <https://niigatanishikanku-syakyo.jp/>

<取り組みに至った経緯>

- ◆ marugo-toの代表は、もともと農業者がもつ知識を、障がいのある方や高齢者に伝えることで、障がいのある方や高齢者の働く場の確保に繋がり、地域の農業衰退の抑制となると思い描いていた。
- ◆ そんな中、代表の父母が離農することとなり、空いたビニールハウスを地域資源として再利用し、様々な人の居場所づくりに活用したいと考えていた。
- ◆ 同様に、西蒲区社協も「男性シニア・ひきこもり・障がい者等」の誰もが活躍できる場を検討していたことからこの取り組みについて共同企画することとなった。

<取り組む際に生じた課題と対応方法>

- ◆ 活動の周知が課題。各区社会福祉協議会と連携し、参加希望者を随時募集したり、紹介してもらっている。
- ◆ 活動資金の確保に苦労しているが、参加費や協力金、野菜、木工製品の収益等で運営できている。

<今後の展望>

- ◆ 農産物や副産物の収益性創出。
- ◆ marugo-toブランドを確立し、商品の高付加価値化を目指す。
- ◆ marugo-toの活動を持続させ、楽しく自由な居場所を提供し続けたい。

<活用した支援施策>

- ◆ 令和元年度新潟県若年性認知症者等社会参加活動支援事業補助金
- ◆ 県民たすけあい基金助成事業

